

東海勸学

NO. 49

2013. 7

東海創玄書道会

TOKY 書 2013 公募団体の今

と き： 平成25年1月4日(金)
 ~16日(水)

ところ： 東京都美術館

大正15年に開館し、昭和50年に新築した東京都美術館が、平成24年4月にリニューアルオープンしたことに伴い、「TOKYO 書 2013」展を開催しました。



この展覧会は、関東に拠点を置く書の公募団体の中から選出された18団体の次世代を担う書作家38名が、1人当たり10メートルの壁面を与えられ自由に展開。漢字・仮名・近代詩文書・大字書・篆刻・刻字・前衛書…と、古典主義の書から現代書までを網羅し、各会派の競演を見ることが出来るというものでした。

創玄書道会からは、加藤裕先生、鈴木不倒先生、吉田成美先生、金子大蔵先生の4名が選出され出品。創玄書道会の威信を背負うという重圧を撥ね返した諸先生方の作品は、それぞれの顔を見せ、正に圧巻でした。

当会顧問の加藤裕先生は、縦2.4メートル×横9メートルに及ぶ大作一点を発表。墨をたっぷりと含ませた大筆で「釈迦の十大弟子」の名前を大字で書き並べ、その左に小書きで宮沢賢治の言葉「かなしみはちからに欲(ほ)りはいつくしみにいかりは智慧にみちびかるべし」とを書き添えた作品で、言葉に思いを馳せ祈るがごとくにひかれた線は、滲み美しく深みがあり、書き出しから終わりへと一つの物語が展開しているような魅力ある作品でした。「釈迦の十大弟子」といえば、棟方志巧の板画作品「釈迦十大弟子」があります。木版の特徴を活かして一柵一柵刻する棟方志巧、同じ東北出身の宮沢賢治の生き方・宗教面、そして、加藤先生みずからの芸術観と相まって、今回の作品は人に訴えかける力のあるものでした。





1号車のみなさん

東海創玄研修旅行 古都・京都の旅

と き： 平成24年10月14日

ところ： 古都・京都の旅

少しずつ秋の気配が感じられるようになってきた去る10月14日、東海創玄の研修旅行にて京都へと行ってきました。

心配された天気も良く予定通り名古屋を出発し、途中二度休憩に立ち寄り最初の目的地高台寺へつきました。境内は坂道が多くあり一周するのに多少体力がいるコースでした。



萬福寺 大雄宝殿

次に有鄰館へ向かい、ここでは館長の貴重な講和を聴いた後、色々な文化遺産を見学できました。中でも今回のためにと展示していただいた、黄庭堅や王鐸等の書を始め、絵画や彫刻、青銅器等の重要文化財を見学でき、大変貴重な時間を過ごすことが出来ました。有鄰館を出発した後「ホテルリょうぜん」に移動して昼食をいただき、会席料理で懇親を深めながら楽しい時間を過ごしました。



りょうぜん にて昼食

その後宇治へ移動し黄檗山萬福寺を見学しました。ここで記念撮影をした後、中へと進んで行くと天王殿にて巨大な布袋尊に迎えられました。そして、最後の目的地の平等院に向かいました。ちょうど今、鳳凰堂は改修中であまりよく見れませんでした。鳳翔館にて、鳳凰や梵鐘、菩薩など見学することが出来ました。楽しく過ごした京都の旅も時間が過ぎるのが早く、あっという間に帰る時間となり途中で休憩に立ち寄り無事に名古屋へと着きました。

〈1号車 紫玄会 太田龍峰〉



萬福寺 慶境内にて

爽やかな秋晴れのもと、今回の研修旅行に参加させていただきました。

メインであった「有鄰館」の貴重な文化遺産を拝見するにあたり、諸先生方の解説でより一層の興味を持ちました。黄庭堅「李太白憶旧遊詩卷」は、柔らかい筆使いの中に、線の深みがあり、なんとも言いがたい線質に感動を覚えました。



有鄰館にて川合・加藤新旧代表

又、私共参加者の質問には、細かい部分まで説明いただいたり、お話を聴くことができ勉強になりました。

先生方と共に皆さんが拝観されている光景は、とても和やかな雰囲気でもよかったと思います。

「宇治平等院鳳凰堂」は残念ながら工事中でしたが、綺麗なミュージアムを見学することができました。高台寺では立派な日本庭園を眺めることができ、古都・京都の旅として心が落ち着きました。それとは逆に萬福寺では中国の趣のある、なかなか魅力的なお寺でした。



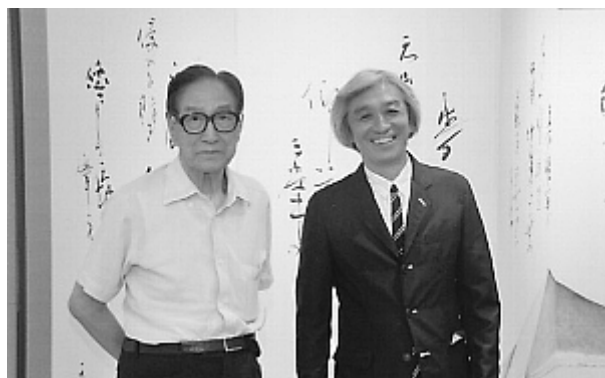
先生方と古都の旅路を有意義に過ごすことができ、且つ、さまざまなお話を聞かせていただいた束の間の一日の秋旅でした。

〈2号車 蘭輝会 長谷太郎〉

2号車のみなさん

遺墨 加藤大碩の世界展

併催 加藤 裕 書展



と き： 平成24年9月19日(水)

～23日(日)

ところ： 電気文化会館5階東・西ギャラリー

加藤大碩先生の三回忌を迎え、「加藤大碩の世界展」併催「加藤裕書展」を開催致しました。

「さくらさくら」の大作に始まり、日展、毎日展、創玄展、個展等の作品群に画作、写経、日記も置かれ、書・画・詩が渾然となった大碩先生の世界が広がりました。



永い書の伝統から脱却し、誰にも親しめる清新な近代詩文書の世界を打ち立てた金子鷗亭先生。大碩先生はその志を継ぎ、漢字かな交じりの書を読み易く、日常にも役立ち、親しめるようにする一方で、芸術としての豊かな美を追求し、優美で格調高く表現されました。先生の真摯な書への思いが会場に溢れていました。

併催「加藤裕書展」は、東日本大震災においての人間の尊厳や儚さを心にとめ、生けるものの幸せを願い奔走した宮沢賢治に思いを馳せ、挑んだ大作七点となりました。力強く温かで、重厚な立体感ある書線で迫ってくる表現豊かな作品群が、迫力溢れる空間を作り上げています。

両先生の書に対する情熱を忘れずに、会員一同これからも精進して参ります。ご多忙中にもかかわらず全国より大勢の方々にご高覧いただき、またご祝電・ご祝辞を賜りまして心より御礼申し上げます

(溝口子静 記)

中部発信 創玄の力／社中だより

第9回 香木会書展

平成24年12月7日(金)～9日(日)

岐阜市文化センター3F



第9回香木会書展のテーマは、「冬の書」でした。第6回展を春に開き、夏、秋と隔年で開催してきました。そして今回最終章「冬」に開催となりました。毎回作品以外に会員全員で同じ題材で表現しています。春にはレース紙とビニール素材を使用しました。夏はガラスを削ったり書いたりしました。秋には大きなものから、小さなハガキ大まで自分達で軸装に仕立てました。今回展は手ぬぐいを各自で染めてから、そこに黒の絵具で写し取った書を丁寧に塗っていきました。

そして、今回皆が楽しくて夢中になってしまったのが、箱で表具をすることでした。箱の中にハガキや、染めた紙を裏打ちして張り込むものです。張り込む時に、間に発泡スチロールを挟むと浮き出した表具になります。それを基本に紙だけではなく、木のお皿やレース等いろいろ組み合わせて本当に楽しみました。皆さん、だんだん箱を見るとストレスが溜まるほどでした。

また、会場で3日間とも1時から書のパフォーマンスをさせていただきました。今回で2回目となりますが前回と同様に集団で1枚、私、佐々木1人で1枚を書きました。東日本大震災の被災地に届いた世界中からの支援に感謝した、被災者の方々の詩「ありがとうの詩」から「あなたがいたから」と「ふるはな」を書かせていただきました。新聞でもカラーで大きく写真も載せていただきました。皆さんパフォーマンスを目当てでいらっしやり、一時には会場が大変混雑しました。

子供達も作品、箱作品、金子みすゞの詩作品と3点も出品してくれました。最後になりましたが、東海創玄の先生方も川合玄鳳代表始め、遠い所をお越し頂いて、心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

(佐々木香魚 記)



第14回 清晨会書展

平成24年11月13日(火)～18日(日)
名古屋市民ギャラリー 栄 8階 第9・10
展示室

展示室に入るなり、色とりどりのあんどん、ちょうちん、オブジェ風等の手作り照明器具に、驚きと感動がありました。「あかりの書」をテーマに、一昨年起きた東日本大震災の被災地の方が、国内外の支援してくださった方々に対する感謝の気持ちを込め書かれた「ありがとうの詩」(河北新報社発行)より詩を選び、書と“あかり”と言う暖かい光を融合させ皆さんにみて頂きました。

又、毎年のように御嶽の合宿で書き上げた大作は力強く、切なく、そしてやさしさの表現に、中にはその詩に涙を流し鑑賞される姿も印象的でした。大変多くの皆様に御来場頂きありがとうございました。

又、ご指導下さった諸先生方にも厚くお礼申し上げます。

(小川琴風 記)



玄煌社展 2012

平成24年10月2日(火)～7日(日)
名古屋市民ギャラリー 栄 8階 第7・8
展示室

前回開催から4年の時を経て、玄煌社展2012「部屋に飾りたい書」を開催しました。



このテーマは3回目を迎えました。私たちが毎日過ごす「住」の生活空間において、時に眺め、時に口ずさみ、時に自分を楽ませ、時に自分を奮い立たせ、そして静かに自分を見ている書。そんな作品を求めて来ました。

出展をする皆さんは作品制作に自分が考えていた以上に苦労をしたようです。書きたい言葉の素材選びは、本、雑誌、新聞、テレビやラジオからの一言、歌詞の一行、電車内での広告、そしてこれらを書き溜めていた言葉の貯金箱から皆さんそれぞれ想いの詰まった言葉です。満足を求めて制作した作品93点は、御来場いただいた方々に親しみを持って迎えていただけたと思います。

期間中、ご多忙の中をご来場賜りました諸先生方に、会員一同心から御礼申し上げます。玄夏先生のもと、今後新たな気持ちで書の道に精進してまいります。

(小嶋真海 記)

蘇香社&教室書道展

平成24年7月12日(木)～7月17日(火)
名古屋市中区栄 妙香園画廊 3階4階

今年は3年ぶりとなる蘇香社&教室書道展を7月12日(木)～7月17日(火)まで、名古屋市中区栄にある妙香園画廊3階・4階にて開催致しました。



会期中には、東海創玄書道会顧問・黒田玄夏先生、加藤裕先生はじめ、代表・川合玄鳳先生と東海創玄会員の方々にもお越しいただき、誠にありがとうございました。



た。

試行錯誤しながら作品制作を行い、出品致しましたが、先輩たちのバラエティーに富んだ作品作りは私にはとても勉強になりました。

今回は、中学生までは、うちわに思い思いの字を書き、それ以上は額作品を出品しました。

初めてこのような展覧会に参加した子供たちも、とても良い刺激になったようで、会場にて他の作品を見て次回には……という思いも持つことが出来たようでした。

今回の展覧会には、0歳から80歳代まで幅広く出品しました。このように幅広い年代に渡り共通の趣味を持つことができる書道は素晴らしいと思いました。今後も皆様のご指導・ご鞭撻を賜りながら次回に繋げるためにも日々精進してまいりたいと思います。

(式守白萩 記)



華門会だより

武内幽華 没後十年記念書展

「夢のおと」

平成24年4月17日(火)～4月22日(日)

栄サンシティギャラリー

没後6年は「武内幽華の山頭火」を、今回は、先生が自詠句を書作されたものをメインに開催しました。〃いのちのかぎり〃残された作品が並ぶ会場は、先生の笑顔や息づかいが伝わってくる素敵な空間と



なりました。

初めて師の作品に接する鑑賞者も多く、いろいろな質問があり、会話の絶えない雰囲気が続きました。遠方からも多くの先生方に来ていただきました。そして、先生方の思い出話をお聞きし、師の魅力を会員一同が新たに作る良い機会となりました。

東海創玄の大勢の先生方には、お忙しいなかご来場いただき御礼申し上げます。また、この書展ができたのも福西史呂氏のご尽力があつてのことと感謝致します。
(武内峰敏 記)

48回 書玄展

平成24年4月3日(火)～4月8日(日)
愛知芸術文化センター 8階 J室



今春は寒さがいつまでも残り、桜の花も例年よりも遅れていましたが、開花と共に書玄展が開催されました。ところが初日、思いもよらぬ悪天候となりました。台風並の暴風雨に轟く雷鳴！春の嵐にしては異常な激しさに驚かされました。近年の異常と思える激しい気象は、地球の温暖化によるものと、いわれていますが、この地球が発している警告に対して私達は何をすればよろしいのでしょうか……。

そして地球が存在する宇宙、今年の書玄会のテーマは「宇宙」でした。会場は、素晴らしい宇宙が、見事に広がっていました。青い空を見上げ、深い星空を仰ぎ見、

遥か彼方に想いを馳せながら夢を追い、
又畏敬の念を抱き、制作されました個性
的な作品が壁面を美しく飾っていました。
又フロアーでは、星の形の作品群の中を
列車が走る。宮沢賢治の銀河鉄道の夜を
イメージした展示がされました。ふっとジョ
バンニやカムパネルラなどの姿を想い描
きながら、ご覧いただけたのではないかと
思います。

お忙しい中、ご来場頂きました東海創玄
の先生方始め諸先生方、ありがとうございます
でした。

厚く御礼申し上げます。

(澁谷鳴風 記)

会員 News

東海創玄書道会役員

最高顧問	大井 錦亭			
名誉会長	石飛 博光			
顧問	安藤 滴水	加藤 裕	黒田 玄夏	
	高木 光風	山中 秋邦		
参事	永井 恵子	服部 祥石	前田 小鶴	
代表	川合 玄鳳			
代表補佐	大島 緑水	川口 雄峰	武内 峰敏	
常任理事	後藤 啓太	鈴木 史鳳	高橋 栖雲	
	滝川 山翠	廣澤 凌舟		

第65回 毎日書道展（東海創玄関係分）

○当番審査員（近代詩文書部）	大島 緑水	川合 玄鳳
	後藤 啓太	武内 峰敏

創玄書道会役員

最高顧問	金子 聴松		
名誉会長	中野 北溟		
会長	大井 錦亭		
副会長	内山 玲子	関 正人	
理事長	石飛 博光		
副理事長	関口 春芳	田岡 正堂	
	（以下東海創玄関係分）		
理事	加藤 裕		
参与	黒田 玄夏		

中部日本書道会役員（東海創玄関係分）

名誉副会長	安藤 滴水		
常任顧問	黒田 玄夏		
顧問	山中 秋邦		
理事	大島 緑水	加藤 裕	武内 峰敏
参与	服部 祥石		

第二事業部長	佐野	翠峰
研究部長	廣澤	凌舟
教育部長	後藤	啓太
褒賞部長	武内	峰敏

編集後記

予定より遅くなりましたが、今年度も、無事発行に辿り着くことが出来ました。

今まで、会報発行に合わせて東海創玄書道会のホームページを年一回更新して参りましたが、今後は、出来る限り行事等が行われる度、原稿、写真等資料をお寄せ頂く度に更新し、ホットな情報を皆様にお伝えしていけるようにしていきたいと思っています。是非ホームページをご覧ください。

会員の皆様には、今後も引き続き、原稿、写真等の資料のご協力を宜しくお願い致します。

広報部長 小嶋真海